

弘前大学学報



弘前市 元長町

第 33 号
平成18年12月号

学内ニュース

- 平成18年「仕事納め」学長挨拶 学長 遠藤正彦 ----- 1
- テネシー大学マーチン校(UTM) Jeremy Kolwinska 博士が来学 ----- 4

学 事

- 外国出張 ----- 5

諸 会 議

----- 7

人 事

- 人事異動 ----- 10

主要日誌

----- 12

学内規則

----- 13

- 国立大学法人弘前大学職員給与規程の一部改正
- 国立大学法人弘前大学管理運営規則の一部改正
- 国立大学法人弘前大学職員就業規則の一部改正
- 国立大学法人弘前大学教員の資格、任免、分限及び懲戒に関する規程の一部改正
- 弘前大学理工学部規程の一部改正
- 国立大学法人弘前大学固定資産管理事務取扱規程の一部改正

平成18年「仕事納め」学長挨拶

平成18年12月28日

弘前大学長 遠藤正彦



国立大学法人弘前大学の平成18年の仕事納めを迎え、本学教職員一同の前で、ようやくこの一年を無事に越せるのかなという思いに、多少安堵を覚えております。まず、この一年間の本学教職員の皆さんの御労苦に対して、心からの感謝の意を表します。では、この一年を振り返り所感を申し述べます。

【学長再任による新体制】

私は、国立大学法人の新しい制度としての学長選考会議の指名により、本年2月1日より学長として再任されました。その再任に当たり、国立大学法人

として2年を経過してみると、幾つかの管理運営上の不備があることに気が付き、これを見直すこととしました。

まず、本学の意思決定とその強力な実施体制により機動性を持たせるために、理事の役割分担を見直し、理事全員の交代と共に、役員会、学部及び事務部の連携強化を図りました。そのため、従前の連絡調整会議に代えて、役員、各学部長、及び各事務部長が参加し、各学部事務長が陪席する運営会議を新しく発足させました。

そして、附属病院経営の強化を図るため、附属病院長を専任とし、学長特別補佐として役員会に出席させることとしました。

【年度評価と認証評価】

平成17年度年度計画に対する実績報告の評価は、まずまずのものでした。しかし、平成20年度に第1期中期目標・中期計画に対する暫定評価が実施されることを勘案してみると、本学の中期計画の実施進捗状況には幾つか問題のあることが明らかで、その対応に本年後半から取りかかったところであります。

一方、国立大学法人として7年に一度実施されることになっている認証評価を、本学は本年申請し、訪問調査を受けました。評価結果はまだ示されておりませんが、一定の評価が得られるものと期待されています。

【財政】

運営費交付金の効率化係数による毎年1%の減額、附属病院経営に関わる経営改善係数2%分の負荷は、我大学の財政を極めて強く圧迫してきております。

これに加えて、国の方針として5年で5%の総人件費抑制は、我々にかなりの負担と犠牲を強いるものであります。このため、本学教職員に対し経費節減をお願いしているところであります。

更に、極めて厳しい医療環境の中で、様々な問題を抱えている附属病院の経営は、医師・看護師等の過酷な犠牲の上に成り立っており、このことは学長として最も心を痛めていることの一つであります。

〔教育研究組織〕

本学の中期目標・中期計画の中で、教育研究組織の見直しを図ることが明記されており、全学部でそれなりの対応が進められております。

このことで、大学院保健学研究科保健学専攻 博士後期課程の来年4月の発足が決定されております。大学院教育学研究科に臨床心理士養成の指定がなされました。これらを含めて来年は大学院の部局化が行われます。

また、教育学部は明治9年の青森県師範学校の発足から数えて実に130年目に当たります。これは北海道大学の前身であり「Boys be ambitious」で有名なクラーク先生の札幌農学校の創立と同じ年であり、本学の歴史の長さも誇るに足るものであります。それに因んで本年9月30日、教育学部創立130周年記念式典が挙行されました。これに合わせて、教育学部西側に記念公園を開き、ここに明治の大歌人・土井晩翠の作詞になる青森師範学校の校歌の歌碑が建立されました。

〔教育〕

教育における大きな問題は、少子化による大学全入時代の到来、すなわち大学入試志願者減、入学者定員割れの問題であります。本学も年々入学志願者が減少傾向にあります。

そこで、本学として初めて、個別学力検査の前期日程において、八戸市で人文学部、理工学部、農学生命科学部、そして札幌市で理工学部と農学生命科学部の遠隔地試験が実施されました。

そして本年4月から、本学の入学試験のあり方を全面的に見直すため、臨時入学試験改善委員会を設置して検討を重ね、平成19年度において遠隔地試験の拡大を図り、また平成20年度において全学統一を目指した入試科目・配点等の見直しを決定し、第2志望制度の導入も決定したところであります。

学生の問題として重要な点に、学生の就職問題があります。昨年は我国の経済不況の中でも就職率93.3%の好成績を得ました。本年は就職支援センターを中心に各学部の就職担当教員の努力によって、本学の学生の就職も好調で、本年12月15日現在の就職率は昨年の同期よりも実に11.2%上回っております。

学生課外活動も活発になって、この本年2月開催のトリノ冬季オリンピック大会には、本学として初めてのオリンピック選手が出場しました。

体育系クラブにおいては、剣道部の東北地区大学総合体育大会優勝を始め、各クラブが好成績をあげました。文化系クラブとしては混声合唱団の全国合唱コンクール銅賞、吹奏楽団の東北大会銀賞等、輝かしいものがあります。

学生・教職員が合同で実施する総合文化祭は今年で6回目となり、学生の参加者も増加する一方、4,500名以上の市民が参加して、大変な活況を呈しました。

こうした学生教育が活発になってきた背景には、文部科学省の特別教育研究経費である現代GPについて、医学部が選定を受け、また農学生命科学部 地域環境科学科農業土木プログラム、及び理工学部 知能機械システム工学科が日本技術者教育認定機構・J A B E E の認定を受ける等、教育の質そのものの向上していることを示すものが多々あります。また本年9月、国連大学主催の国連大学グローバルセミナーが、本学が主管して実施されました。これも本学の学生には大きな刺激となりました。

〔研究〕

研究においては、本年、理工学部・竹ヶ原克彦教授が日本物理学賞を、人文学部・須藤弘敏教授が国華賞を授賞しました。

そして、国立大学協会が発表しました科学論文のランキングでは、本学は世界で900位から1000位以内、国内では91位内にランクされました。ようやく本学の研究も少しずつ力を発揮しているものと思われま

す。これも本学構成員の本学に大型分析機器を自前で導入しようという気運が高まることによって、機器分析センターに本年は、核磁気共鳴装置・NMRが設置されることとなります。

特筆すべきことは、教員の研究成果を中心とした著述が本学の出版会から続々と出版されていることでもあります。出版会創立以来3年未満で既に21冊の著書が出版されました。この成果が評価され、来年4月より大学出版協会の正会員として登録されることになりました。

[産学官連携及び社会連携]

今年、産学官連携が一段と進みました。4月に東京都江戸川区及び江戸川農業者経営クラブと連携協定が結ばれました。

そして、本学が国内で初めて実施した産学マッチングプログラム“GOGOファンド”において企業とのマッチング第1号が締結されました。産学官連携の中心である地域共同研究センターが、来年いよいよ創立満10周年となります。この地域共同研究センターが中心となって、この低迷する地域経済にあっても外部資金が増加しているのは、高く評価すべきと思います。

一方、社会連携に関しては、その中心、生涯学習教育研究センターが本年満10周年を迎えました。そして9月弘前市との包括協定が、11月青森県との包括協定が結ばれました。そしてJTBと本学の共同で、国立大学として第1号となるシニアサマーカレッジが開講され、全国から受講生を集めました。そして地元で開催される津軽路ロマン国際スリーデーマーチにも本年本学から初めて参加し、地元との交流を深めました。

地域連携に関して、全国国公立私立大学137校中23位にランクされましたのは、今まで申し上げてきたような本学の地域での活躍が評価されたものと思います。

以上、大掴みで教職員の本年の活躍を概観してきましたが、ここでは触れなかったまだ多くの皆さんの業績成果があります。時間の都合で割愛することをお許し下さい。

しかし、本学の教職員の様々な大学を良くしようとし、そして成果を挙げようとする努力は、少しずつ実を結んでいるように思います。それは先程述べた他にも、大学ランキングで本学がそれなりの評価が得られるようになってきていることに示されます。

そして何より、後に詳しく報告されますが、来年度・平成19年度の予算内示において、特に施設関係では破格の手当を受けました。これは正に、一重に教職員の大学改革の成果に対する評価そのものであります。

私はこの予算の内示があるまで、来る平成20年度の暫定評価を重苦しく受けとめていましたが、予算内示を受けて、来年以後の弘前大学の未来に対して明るい希望が持てるようになりました。

この一年の教職員の皆様の御苦勞に重ねて感謝申し上げますと共に、皆さんと共に弘前大学の未来に大いに希望を持って、新年を迎えることに致しましょう。

皆さん、ありがとうございました。皆さんそろって佳き新年をお迎え下さい。

テネシー大学マーチン校(UTM) Jeremy Kolwinska 博士が来学

本学の姉妹校であるテネシー大学マーチン校(UTM)から、Jeremy Kolwinska 博士(音楽学部・助教授)が、大学間交流協定に基づく20人目の招へい研究者として、12月11日から9日間の日程で来学されました。

本学とUTMとは、大学間交流協定に基づき、昭和55年から多くの学術分野で相互交流を続けており、今回のJeremy Kolwinska 博士の来学は、教育学部(音楽教育講座)の受入れによるものです。

同博士は、12月11日(月)に遠藤学長を表敬訪問され、17日(日)には、弘前大学創立五十周年記念会館みちのくホールにおいて、「ジェレミー・コルウィンスカ トロンボーン・リサイタル」を開催し、米国テネシー州マーチン市民として姉妹都市弘前市民との音楽による国際交流を楽しまれました。演奏会では、浅野教授のピアノに合わせて金管楽器トロンボーンの重厚な音色が響き渡り、クラシックの名曲等6曲が演奏され、来場者はその音色を心行くまで堪能しました。

さらに、同博士は、教育学部器楽トロンボーン研究室の協力で、12月13日(水)及び12月18日(月)の両日にわたって本学教職員・学生のみならず弘前市民も対象にした「公開レッスン」を同学部音楽ホールで実施し、直接指導を受けた弘前市内中学生等には感激的な一コマとなりました。

また、12月18日(月)には「18世紀のトロンボーン」と題して弘前大学学術講演会を同学部音楽ホールで実施し、トロンボーンの辿った音楽的歴史をCD演奏も交えながらアカデミックに分かりやすく解説するとともに、軽妙な語り口で聴衆を魅了しました。

同博士は、本学滞在中、受入れ部局の教育学部教員・学生との研究情報交換並びに指導・助言等、寸暇を惜しんで積極的に交流を深められ、日程の合間には、日本の伝統的城下町弘前と本州最北端津軽の自然、文化を満喫し、日本への冬の旅の印象を深められました。



遠藤学長を表敬訪問された
Jeremy Kolwinska 博士と浅野教授(左)、
和田教授(右)



弘前大学学術講演会
(教育学部音楽ホール)

外国出張

職名	氏名	渡航目的	目的国	期間
助教授 (人文)	山田 巖子	「唱導文化の比較研究」第6回研究会・台湾調査のため	台湾	18. 12. 21 ～ 18. 12. 24
教授 (人文)	保田 宗良	日系流通の調査・資料収集	マレーシア	18. 12. 22 ～ 18. 12. 26
助教授 (人文)	李 永俊	若年労働市場に関する資料収集	大韓民国	18. 12. 24 ～ 18. 12. 28
助教授 (医)	馬場 正之	ケープタウン大学糖尿病センター訪問, 神経障害痛覚調査についての研究打合せ及び第7回国際糖尿病神経障害シンポジウム出席	南アフリカ共和国	18. 11. 23 ～ 18. 12. 4
助教授 (医)	小野 修一	第92回北米放射線学会出席	アメリカ合衆国	18. 11. 25 ～ 18. 12. 2
助手 (医)	高橋 賢次	ベイラー研究会, アメリカ血液学会に出席のため	アメリカ合衆国	18. 12. 6 ～ 18. 12. 13
講師 (病)	横山 徹	中日脊椎外科検討会脊椎外科技術新進展検討会出席	中華人民共和国	18. 12. 7 ～ 18. 12. 10
教授 (理工)	古屋 泰文	浦項産業科学研究院にてマルチフェロイクス複合材料に関する研究討議	大韓民国	18. 12. 3 ～ 18. 12. 5

職名	氏名	渡航目的	目的国	期間
助手 (理工)	関口 暁宣	“2006 IEEE-RAS International Conference on Humanoid Robots”にて研究成果発表	イタリア共和国	18.12.2 ～ 18.12.9
教授 (農生)	比留間 潔	アメリカ昆虫学会(ESA)において講演及びワシントン大学において細胞培養に関する共同研究	アメリカ合衆国	18.12.8 ～ 18.12.27
教授 (農生)	澁谷 長生	よもぎの健康・福祉利用に関する調査研究	大韓民国	18.12.13 ～ 18.12.17
教授 (農生)	檜垣 大助	パキスタン国総合交通網調査(地すべりハザードマップ作成)	パキスタン・イスラム共和国	18.12.19 ～ 18.12.28

■ 諸 会 議

▼役員会

12月4日（月）

審議事項

- 1 大学附置センター等改組の教育研究評議会への付議について

報告事項

- 1 教員組織の整備に関する基本方針について
- 2 弘前大学独自の奨学金制度について

12月11日（月）

審議事項

- 1 教員組織の整備に関する基本方針（案）の教育研究評議会への付議について
- 2 職員給与規程の一部改正について
- 3 平成18年度予算実施計画の変更について
- 4 平成20年度入学者選抜方法及び実施教科・科目等（案）の教育研究評議会への付議について
- 5 「平成19年度 年度計画」作成スケジュールについて

報告事項

- 1 平成17年度における国立大学法人及び大学共同利用機関法人の業務の実績に関する評価の結果についての意見について
- 2 学内共同教育研究施設（大学附置センター等）の改組について
- 3 平成18事業年度中間決算について
- 4 第3回監事協議会について

12月18日（月）

審議事項

- 1 平成18年度予算実施計画の変更について
- 2 教員組織の整備に関する基本方針（案）について
- 3 学校教育法改正に伴う諸規則等の一部改正について
- 4 平成20年度入学者選抜方法及び実施教科・科目等（案）について
- 5 弘前大学創立60周年記念事業について

報告事項

- 1 中期目標・中期計画の進捗状況について
- 2 国立大学協会大学評価委員会における検討状況について
- 3 平成19年度弘前大学特別研究員の審査に関する申合せについて
- 4 平成18年度大学マネジメントセミナー【教育編】について
- 5 国立大学法人弘前大学研究者倫理規範（案）について
- 6 弘前大学医学部及び理工学部の教員組織の大学院への移行について

12月22日（金）

審議事項

なし

報告事項

- 1 平成19年度予算内示について
-

-
- 2 概算要求等ヒアリング結果について
 - 3 平成18年度戦略的経費等執行計画

12月26日（火）

審議事項

- 1 中期目標・中期計画の変更の教育研究評議会への付議について

報告事項

- 1 国立大学協会臨時学長等懇談会報告
- 2 平成18年度内部監査の結果について
- 3 学長定例記者会見について
- 4 平成18, 19年度国立大学法人弘前大学施設整備予定事業について
- 5 平成19年度文部科学省各種公募事業について
- 6 グローバル COE プログラム公募要領（案）等の公表及びプログラム申請希望状況について
- 7 ナガイモ原種（1年子）生産の実証的栽培に関する研究に関する覚書の締結について

▼教育研究評議会

12月12日（火）

審議事項

- 1 教員組織の整備に関する基本方針（案）について
- 2 学校教育法改正に伴う諸規則等の一部改正について
- 3 平成20年度入学者選抜方法及び実施教科・科目等（案）について
- 4 その他

報告事項

- 1 教員人事について
 - (1) 教員の採用・昇任
- 2 学内共同教育研究施設（大学附置センター等）の改組について
- 3 平成19年度大学入試センター試験志願者の本学への割当数について
- 4 各省庁等の競争的資金について
- 5 青森県と弘前大学との連携に関する協定締結について
- 6 委員会報告
 - (1) 21世紀教育センター運営委員会
 - (2) 教育・学生委員会
 - (3) 入学試験委員会
 - (4) 臨時入学試験改善委員会
 - (5) 研究・産学連携委員会
- 7 その他

▼教育・学生委員会

審議事項

- 1 「教育総覧（仮称）の改訂版」について
 - 2 平成19年度総合文化祭の日程等について
 - 3 「学園だより」への広告掲載についての申し合せ（案）について
 - 4 平成19年度（第4回）弘前大学 FD ワークショップへの新任教員の参加について
 - 5 教育・学生委員会審議事項の見直しについて
 - 6 その他
-

報告事項

- 1 独立行政法人日本学生支援機構の優秀学生顕彰事業の大賞選出について
- 2 課外活動団体リーダー研修会について
- 3 平成18年度「学生ボランティア活動支援・促進のための連絡協議会の集い」について
- 4 高大連携講座の実施について
- 5 平成18年度後期「学生による授業評価に関するアンケート調査」の実施について
- 6 平成18年度全学 FD シンポジウムについて
- 7 その他

▼21世紀教育センター運営委員会

審議事項

- 1 平成18年度21世紀教育授業運営・担当評価について
- 2 放送大学との単位互換に係る読替表について
- 3 成績評価の方法と基準について
- 4 その他

報告事項

- 1 センター長報告
- 2 専門委員会報告
 - (1) 教務専門委員会
 - (2) FD・広報専門委員会
 - (3) 点検・評価専門委員会
- 3 科目主任会報告
- 4 その他の報告

人 事 異 動

[採用]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
18.12.1		金藤正直	講師(人文)
18.12.1		安杖優子	教務職員(医・保)
18.12.11		坂本紀子	教諭(附中)[19.1.20まで]
18.12.18		上田智慧	看護師(病院)[19.3.31まで]
18.12.20		村田真奈美	教諭(附養)[19.3.31まで]

[昇任]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
18.12.1	助手(理工)	金正道	講師(理工)
18.12.1	助手(医・医)	伊東重豪	講師(医・医)

[併任]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
18.12.1	教授(医・医)	中根明夫	医学部附属動物実験施設長[20.11.30まで]

[育児休業]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
18.12.18	看護師(病院)	高木真喜子	19.9.30まで
18.12.20	教諭(附養)	山口由美	20.3.31まで

[休職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
18.12.1	事務職員(農生)	田中雄一	19.2.28まで更新
18.12.19	看護師(病院)	小田桐智絵	19.3.31まで

[退職・辞職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
18.12.20	教諭(附養)	村田真奈美	退職 [平成18年12月19日限り任期満了]
18.12.31	教務グループ係長(学・教)	對馬兼昭	辞職
18.12.31	助教授(医・脳研)	馬場正之	辞職
18.12.31	助手(医・医)	及川広一	辞職
18.12.31	助手(医・医)	浦田幸朋	辞職
18.12.31	助手(医・医)	高橋良博	辞職

[退職・辞職]

発令年 月日	現職(所属)	氏名	異動内容
18. 12. 31	助手(病院)	清野 浩子	辞職
18. 12. 31	教諭(附幼)	山本 亜紗美	辞職
18. 12. 31	看護師(病院)	小田桐 智絵	辞職
18. 12. 31	看護師(病院)	小崎 牧子	辞職

■ 主要日誌

- 12月 4日 役員会
7日 入学者選抜選考委員会
総合文化祭合同委員会
11日 役員会
12日 運営会議
教育研究評議会
入学試験報告会
18日 弘前大学監督者研修（JST 基本コース）
経営協議会
役員会
20日 業務改善案管理職員研修
21日 業務改善案正職員研修
22日 業務改善案正職員研修
臨時役員会
25日 入学試験委員会
DNC 管理・運営担当者会議
26日 DNC リスニング予行演習
役員会
28日 仕事納め
学長年末挨拶

■ 学内規則

(平成18年12月11日改正)

○ 国立大学法人弘前大学職員給与規程の一部改正

入試手当については、当該年度に実施された入学試験のすべてが終了した後、翌年度の4月17日にまとめて支給していたが、それぞれの入学試験が終了した後、速やかに支給することとするため、この規程の一部を改正した。

(平成18年12月18日改正・平成19年4月1日施行)

学校教育法の一部改正に伴い、「助教授」を「准教授」に改めるとともに、新たな職として「助教」を設けるため次の規則の一部を改正した。

○ 国立大学法人弘前大学管理運営規則

○ 国立大学法人弘前大学職員就業規則

○ 国立大学法人弘前大学教員の資格、任免、分限及び懲戒に関する規程の一部改正

以下の理由によりこの規程の一部を改正した。

①学校教育法の一部改正に伴い、「助教授」を「准教授」に改めるとともに、新たに「助教」を設けるため。

②教員の資格に関する規定を整備するため。

(平成18年12月22日改正・平成19年4月1日施行)

○ 弘前大学理工学部規程の一部改正

以下の理由によりこの規程の一部を改正した。

①実験設備の使用に支障があることから、地球環境学科の授業科目（実験科目）の開講時期を変更するため。

②教育職員免許状の取得にかかる教職に関する科目の見直しに伴い、授業科目名を変更するため。

(平成18年12月28日改正・平成18年4月1日適用)

○ 国立大学法人弘前大学固定資産管理事務取扱規程の一部改正

固定資産の減損に係る会計処理を導入するため、この規程の一部を改正した。

弘前大学学報第33号

弘前大学総務部総務課
036-8560 弘前市文京町1
電話 (0172) 36-2111